

平成 30 年度西東京市図書館事業評価

事業番号	Ⅱ-1-1	計画内容	資料計画—一般図書資料	担当部門	成人
中間報告以後の実施計画					
・利用の拡大を行うため、中央図書館と各地域館の規模や立地条件、利用状況に応じた特色ある資料構成と書架づくりを行います。					
5年間の獲得目標					
・横積み資料をなくすなど、中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。 ・貸出しが多く、ビジネス世代の利用が見込まれるため、保谷駅前図書館開架を文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料を重視した資料構成に変更します。 ・芝久保図書館に集密書架を増設し、開架スペースに資料保存の役割をもたせます。					
30年度目標					
(1) 利便性の高い魅力ある書架づくりをすすめ、資料の活用を促進します。					
30年度実績					
(1) 中央図書館のコンピュータ関連資料分類を基準として、ひばりが丘図書館・保谷駅前図書館の同書架分類を再構築し、時勢に合致したものに変更しました。 結果、分類変更後2ヶ月間の蔵書回転率が、1年前の同時期と比較し以下のように変化しました。 (比較期間：【2018/1/4～2018/3/4】→【2019/1/4～2019/3/4】) 保谷 0.98回 → 1.12回 ひばり 1.21回 → 1.41回					
自己評価・取組み改善点					
(1) 分類ラベル位置を揃え、見出し板を作成したことにより、利用者がブラウジングしやすい書架にしました。 また、分類方針をマニュアル化することにより、職員・嘱託員の資料装備や配架にかかる煩雑さを解消しました。					A
図書館協議会委員による二次評価 1/2					
各委員からの質問・意見 質問：書架分類の見直しをすることで利用者が資料を探しやすくなり、利用促進に繋がったことは大きな実績だと思います。30年度はひばりが丘図書館と保谷駅前図書館2館での実施だったようですが、今後は他館でも実施する予定はありますか。また、コンピュータ関連資料以外での分類見直しは考えていますか。 回答：回答：中央と柳沢は既に実施しており、芝久保と谷戸は館の規模・PC関連資料の蔵書数から、細かく分類することを含め検討中です。PC以外では、今後5年の間に課題解決支援（ビジネス・シニア）の分類見直しを行う予定です。（図書館計画取組事業） 意見：30年度実績 保谷 0.98 などの数値の単位を表記したらどうか。 回答：0.98回と表記します。 意見：工夫をされていると思います。 質問：5年間獲得目標の「中央図書館開架で横積み資料をなくす」は、大変具体的な取り組み目標だが、実際にどの程度実現されたのか。（取り組み前後の比較はしているか） 回答：委員から意見でご指摘いただいているとおり、現場の担当で処理できるのは除架、除籍による対応が主なものであり、書庫資料の除籍、開架資料の除架（書庫へ移動）を繰り返すことである程度					

の状態を保つことはできましたが、「横積みをなくす」ことに対する抜本的な対応はできませんでした。約6年前に設定した目標ですが、利用状況と蔵書数を考えると現在の床面積、書架収容量で横積みをなくすのは難しいと現在は考えています。現在は、単純に見た目として「横積みをなくす」というよりは、収容能力の限界を超えている中で、なんとか利用者にとって利便性の良い書架を構築する方向で取組を進めています。

質問：保谷駅前図書館開架をビジネス世代向け資料構成にする試みについて、高齢者や子どもなど他の利用者層から反発はあったか。あったとすればどのような内容か。

回答：資料構成について特に反発はありませんでした。

質問：芝久保図書館の開架に資料保存（書庫）スペースを設けることで、他のサービス機能への影響は出ているか。また、別置した資料の利用頻度はどの程度あるか。

回答：収蔵力を増やして、増えた部分で保存を行っているため、影響は出ていません。全集が主体ですが、他館に複本のあるものが多く、利用より、保存の側面が大きいです。

質問：ひばりが丘、保谷駅前図書館の一部分類再構築に関して、蔵書回転率以外に利用者からの反響（意見）などはあったか。

回答：特にありませんでした。

質問：分類ラベル位置を揃えるなどの改善は、どの程度の割合（全体の）で実現されたのか。

回答：開架書架のものを全て対象としました。貸出中であったものは順次対応している。

意見：（１）「開架書架を利用しやすくする」ことは、「資料の量的な充実」とは相反（トレードオフ）する関係にある。前者を実現するには、ある程度後者を犠牲にしなければならないが、それはまた多くの利用者の反発を伴ってしまう。この解決を現場の担当者に任せても限界があり、中途半端な内容しか対応できないのではないだろうか。長期的計画では、書庫スペースの充実などを目標にすべきだが、中期的計画では、どちらの価値を追求するのか図書館としての政策面（ポリシー）の決定とその徹底が必要と考える。

事業番号	Ⅱ-1-4	計画内容	資料計画－レファレンス資料	担当部門	レファレンス
中間報告以後の実施計画					
・レファレンス資料の蓄積と、ホームページ等で新刊情報をご案内します。 ・書庫資料の更新と開架資料の更新を実施します。					
5年間の獲得目標					
・開架室の資料を有効に活用するため、各図書館資料の更新（資料の除架・除籍、移動、購入等）を順次実施します。					
30年度目標					
（１）昨年度に引き続き中央書庫の整理・保存と開架資料の活性化を図ります。 （２）レファレンスニーズに沿った資料の購入を実施します。					
30年度実績					
（１）レファレンス資料計 250 冊を中央図書館書庫からひばりが丘図書館の開架書庫へ移動し、中央で継続購入している資料の保存スペースを確保しました。 （２）各館からレファレンス記録（222 件）を収集し、質問の多い分野の分析を行い、分析の結果から、民俗・文化に関する資料を 19 冊購入しました。また、西東京市の外国人住民・国籍別人口調査の数字に基づき、語学辞典（フィリピン・ベトナム）を 3 冊購入しました。					
自己評価・取組み改善点					
（１）刊行が続いている資料の保存スペースを確保しました。引き続き、紙資料の保存に留意していきます。 （２）実績に基づいた資料を購入し、レファレンスニーズに対応しました。年度末までの最終集計より、医療系のレファレンスが複数見られたため、同分野のレファレンス資料の見直しと強化を行います。					A
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 質問：30 年度実績の「外国人住民・国籍別人口調査の数字」を見たい。 回答：別紙市民課作成の調査（外国人住民・国籍別人口調.pdf）を添付します。 意見：医療系のレファレンスに応えられる資料の充実を。 回答：令和元年度に購入検討をしています。 質問：レファレンス資料を中央図書館からひばりが丘図書館の書庫に移動したことで、利用者から意見・苦情は出たか。その後該当資料の取り寄せ希望はあったか。 回答：特にありませんでした。 意見：レファレンス実績から資料を選書購入しているということだが、レファレンス資料は貸出をしないので、恐らく記録・質問票からの分析ということかと思う。その場合、実際に利用の多い資料、あるいは本来の利用者ニーズが見逃される可能性はないだろうか。 回答：貸出やレファレンス記録で確認できないニーズに対してのアプローチはとても難しく、利用者アンケートで大まかなニーズ確認をしたことはあるが、選書に繋がるような細かい内容までは掘り起しができていません。成人サービスの貸出傾向も参考にしたいと考えています。 意見：レファレンス資料としては、紙媒体以外にインターネット資源を活用すべきである。資料計画と並行して、インターネットの利用環境整備（ハード・ソフトとも）を進める必要がある。（別途、サービス計画があることは了解） 回答：担当でもそのように考えます。図書館計画内でオンラインデータベースの検討を計画しています。					

事業番号	Ⅱ-1-5-1	計画内容	資料計画ー児童・青少年図書資料	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
・外国語資料の原書の購入・買い替えを行い、蔵書の充実を図ります。特に、日本語資料の多言語化資料の購入や欧米以外の言語資料の購入をこころがけます。					
5年間の獲得目標					
・外国語資料を5年間で300冊購入します。 ・所蔵する外国語資料のうち、欧米言語以外の資料が占める割合を10%とします。					
30年度目標					
(1) 欧米言語以外を含め、外国語資料の継続購入をすすめます。					
30年度実績					
(1) 30年度は日本の絵本の翻訳作品を中心に、中国語・韓国語絵本21冊を購入しました。 児童書における外国語資料の所蔵冊数は2,345冊となり、欧米言語以外の資料は260冊で目標の10%を維持しました。 外国語資料の購入冊数は5年間で累計545冊、目標に対して55.0%上回りました。					
自己評価・取組み改善点					
(1) 中央・ひばりが丘図書館で、英語・中国語・韓国語表記でそれぞれの言語の絵本の配置案内を掲示しました。また、同じタイトルの絵本を日本語・英語・中国語・韓国語版で揃えた展示(「いろいろな国の言葉で読もう」)や、普段の書架配置においても、表紙を見せて配架するなど利用者の目に触れるようにしました。また、継続して行っているハンディキャップサービスとの共同企画「英語・中国語・韓国語でできいろんなことばでたのしむおはなし会」で英語・中国語・韓国語版の絵本が活用しています。 昨年度より2館とも回転率は、中央は3倍、ひばりは10倍に伸びており、PRの効果が考えられます。 外国語資料については、今後も継続して購入していきます。					A
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 意見：外国語資料の収集はこれからの図書館には必要だと思います。購入目標を達成されているとのことですので、今後は更なる活用を目指してPRして頂きたいです。 回答：継続してPRに努めていきます。 質問：「欧米言語以外の資料が占める割合が10%」には何か理由がありますか。利用者の割合から考えるともう少し多くても良いのでは、と感じました。 回答：目標を設定した当時は5%程度でしたので、出版流通(入手経路)の検討も合わせて考え、10%を目標としました。 感想：外国語資料の購入に力を入れているのが伝わってきます。 質問：英語、中国語、韓国語の絵本があることが分かりますが、スペイン語やポルトガル語の絵本の収集はどうなっていますか。 回答：スペイン語の絵本は39冊、ポルトガル語の絵本は6冊あります。市内在住外国籍の方の割合により、英語、中国語、韓国語を主に購入してきました。 意見：外国人や関連するNPOの方々に意見を聞きながら取り組んでください。 回答：多文化サービスの担当とも連携して、広くご意見をいただけるように取組みたい。					

事業番号	Ⅱ-1-5-2	計画内容	資料計画ー児童・青少年図書資料	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
・ヤングアダルト資料についてノンフィクションの充実を図ります。平成 25 年度ではヤングアダルト購入冊数の 19%であったノンフィクション資料を、前年度比 2 %程度増を目安として購入をすすめます。 ・平成 26 年度から成人サービス担当者との共同の選書を月に 1 回程度設けることによって、選書の幅を広げ、ノンフィクション資料の充実を目指します。					
5 年間の獲得目標					
・ノンフィクション資料の充実を図るため、5 年間でノンフィクション資料の購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。					
30 年度目標					
(1) ノンフィクション資料を充実させます。購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。					
30 年度実績					
(1) ノンフィクション資料をヤングアダルト全体で 345 冊購入しました。ヤングアダルト購入冊数全体 (983 冊) のノンフィクション資料割合は 35%となりました。 28 年度から 29 年度にかけて行った中央図書館・ひばりが丘図書館のヤングアダルトコーナーリニューアルにおいて新設したテーマ展示について、貸出状況を調査しました。調査の結果と本のリクエスト状況を踏まえ、中央図書館では需要の大きい「勉強法」の本についてさらに購入を行い、新しい情報が載っている本を増やしました。結果、29 年以降に出版された本が 61%となりました。また、「ピンチ」の本の中でも特に「いじめや学校の人間関係に関する本」の需要を鑑み、新しい本を増やしました。(29 年以降に出版された本を 7 冊購入しました。)					
参考					
30 年度のテーマ展示回転率 (貸出回数÷対象蔵書冊数)					
中央					
勉強法 9.09 回					
恋愛・性 3.09 回					
ピンチ 3.65 回 (この内、いじめや学校の人間関係に関する本 8.38)					
就職 1.42 回					
進路 3.62 回					
ひばりが丘					
進路 4.04 回					
部活 3.82 回					
勉強法 9.78 回					
自己評価・取組み改善点					
(1) ヤングアダルト購入冊数全体 (983 冊) のノンフィクション資料割合は 35%、目標値を上回りました。今後も維持していきます。また、テーマ展示についても、通常の知識の本棚にあるものより貸出がされており、特に勉強法と、いじめや学校の人間関係に関する情報への関心の高さが伺えます。今後も積極的購入を行い、需要に応えていきます。					A
図書館協議会委員による二次評価 1/2					
委員からの質問・意見					
意見：ヤングアダルトを対象とした資料の収集はなかなか難しいと思いますが、ノンフィクション資料の充実を図ることに着目されたことは良いアイデアだと思います。若い世代のニーズに応じていくことは図書館の発展にもつながるはずです。					

図書館協議会委員による二次評価 2/2

意見：ノンフィクション資料の「勉強法」「ピンチの本・・・人間関係」の新しい本が購入されたのはとてもよいと思いました。回転率が高くなっていることも魅力的な本棚になっているのだと思います。

質問：中央、ひばりが丘図書館以外の図書館ではこの結果を活かした変更は行わないのですか。

回答：スペースの都合上、新規コーナーの設置など大きなレイアウト変更は考えておりませんが、ヤングアダルト全体の選書に活かしていきたいと思います。

意見：回転率の説明

回答：対象期間：30年度（2018年4月1日～2019年3月31日）、それぞれのコーナーに配架されている資料を対象に貸出回数を蔵書数で除したものです。

意見：今後も積極的な収集を。また、YA資料の収集を活かしたサービスを展開してください。特にYA世代の参加がポイントになると思います。

回答：CATCH共同編集やイベント、職場体験などYA世代の生の意見を聞く機会を大事にし、資料収集を含めたサービスに反映させていきます。

質問：ヤングアダルト資料の購入について、職員担当者の選書以外に、利用者（YA）自身が選書出来る部分があるか。

回答：現在のところ仕組みとしてはありませんが、CATCH共同編集やイベント、職場体験などヤングアダルト世代と直接コミュニケーションをとる機会に読書傾向などの聞き取りを行い、資料収集へ活かすようにしています。また、YA!YA!ペーパー（CATCHへの投稿用紙）を通して、ヤングアダルト世代の好きな本、オススメの本を把握し、選書の参考にしています。

意見：ヤングアダルト資料の購入に際して、該当年代の利用者の意見を聞くことのできる仕組みを作ってはどうか。（もうできているかもしれないが）

その場合、大学図書館で行われている「学生協働」のやり方が参考になるのではないかな。

例えば、「選書ツアー」「見計らい選書への参加」「POPによる選書の紹介」など。

回答：ヤングアダルトの選書について、「ヤングアダルト世代対象」と銘打って出版されているものは冊数が限られているため、見計らいよりはカタログや職員の情報収集で児童書や一般書から購入しているものが多いです。ヤングアダルト世代に参加してもらうのであれば、普段の見計らいではなく、特設会場や図書館外の場所で行うことも検討する必要があります。西東京市図書館では中学生から18歳をヤングアダルト世代としていますので、未成年に対して外部施設でのイベントを行う難しさや収集基準への理解をどう得るか等と合わせて今後のサービスの参考にさせていただきます。選書ツアーが大学生に対して有効とのことで、検討にあたっては成人サービスとの連携も考えたいと思います。

また、購入の選書ではありませんが、職場体験を通して、中学生によるPOPでのおすすめの本の紹介を行っています。

事業番号	Ⅱ-1-6	計画内容	資料計画ー地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料
中間報告以後の実施計画					
・地域・行政資料室は収集方針に沿って永久保存資料の原紙保存とデジタルデータ化を進めるため、積極的な公開と情報提供に努めます。					
5年間の獲得目標					
・第2次総合計画に位置づけられた「地域・行政資料の電子化の推進」事業を実施します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を継続します。					
30年度目標					
(1) 原本劣化が懸念される資料、館内閲覧や公開により利便性が増す資料の電子化を進めます。					
30年度実績					
(1) 市史編纂資料として原本を移管されている文書の電子化を進めました。 対象とした資料数は324点、画像数にすると12,256点となります。 (2) 新聞折込広告4,047枚の電子化により、2001年6月（5月を除く）までの画像が館内で閲覧できるようになりました。 (3) 館内閲覧と保存を目的に地域紙『週刊東興通信』（1958.10.29～2008.9.24 終刊）の原紙を、当時の発行人より許諾を得て、デジタル化しました。					
自己評価・取組み改善点					
(1) 市史編纂資料の電子化は、平成28年度の開始から3年間で、原本もしくは原本の画像（マイクロ・写真）を主として移管された21シリーズのほぼ全て（資料数7,191点）の電子化が終了しました。 (2) 新聞折込広告の電子化は予算内で可能な数を進めることができました。 (3) 『週刊東興通信』の古いものは原本劣化が進み、閲覧も慎重になっていましたが、デジタル画像で館内閲覧が可能となり、調査等の利便性が高まりました。館内での閲覧と同時に、プリントアウトが実施できれば充実したサービスになると考えます。					A
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 意見：地域・行政資料の収集は公立図書館にとって大切なサービスです。デジタル化は市民の利便性を高めるものと思います。デジタル化を推進してください。					

事業番号	Ⅱ-1-7-1	計画内容	資料計画—音声資料・点字資料等	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
・デージー図書の作製を進めます。目標 800 タイトルのうち、前期計画期間の 5 年間で 450 タイトルのデージー図書を作製しました。今後 5 年間に 350 タイトルを作製します。					
5 年間の獲得目標					
・今後 5 年間で 350 タイトルのデージー図書を作製します。					
30 年度目標					
(1) 利用者からのリクエストに応じてデージー図書（プライベート含）を作製します。					
30 年度実績					
(1) 利用者からリクエストされた図書のうち、作製したデージー図書は 52 タイトル、全戸配布した市刊行物（健康事業ガイド）及びプライベートで作製したデージー図書は計 6 タイトル。合計 58 タイトルに作製。 平成 26 年度から累計 297 タイトル作製しました。目標には達しませんでした。音訳者の協力により 85%の達成率となりました。					
自己評価・取組み改善点					
(1) 音訳者の確保・育成として、初級と中級養成講座を毎年交互に開催、今年度は 9 期生として 14 人初級養成講座全 10 回を実施しました（講師謝金 16 万円）。また音訳レベルを維持していくために現役音訳者にレベルアップ研修も全 11 回実施しました（講師謝金 18 万円）。デージー録音のための研修（3 日連続研修）を実施しました（委託料 18 万円）。今後も後継者の育成・レベルアップの強化を図ります。					B
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 意見：デージー図書の作製には音訳者の確保や育成に時間と手間がかかる大変な作業であることを知り、西東京市の大切な資料だという思いを強くしました。 作製したデージー図書が市内はもちろん、全国の利用者に活用されることは素晴らしい取り組みだと思います。 意見：目標タイトル数を掲げていますが、音訳者への過度な負担にならないように対応してください。 回答：今後も音訳者への配慮はしていきます。また定期的に音訳者を募集し増員していければと考えています。 質問：「デージー図書」について、音訳者の確保・育成の初級と中級養成講座を開催とありますが、これはどこか（健康事業ガイド？）で公募されているものですか？これを受ければ、西東京市から仕事をいただくことができ（もしくはボランティア？）、音訳者として活動できるのでしょうか？ 回答：西東京市図書館ハンディキャップサービスが、2 年毎に音訳者募集・選考しています。2 年間の養成講座を受講、修了後音訳の会（図書館帰属のボランティア）に登録し活動していただいています。図書館ハンディキャップサービス担当から作製依頼をしています。 市報をはじめ、市 HP、図書館 HP、館内掲示を中心に公募しました。					

事業番号	Ⅱ-1-7-2	計画内容	資料計画ー音声資料・点字資料等	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
・国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービスに登録し、作製したデジタイズ図書をアップロードして、全国の図書館や点字図書館に資料の提供を行います。					
5年間の獲得目標					
・利用者への資料の貸出しを含め、情報提供を拡大するため、デジタイズ図書 800 タイトルのアップロードを目指します。					
30 年度目標					
(1) 昨年度並みの 200 タイトルのデジタイズ図書タイトルのアップロードを目指します。					
30 年度実績					
(1) 33 タイトルのデジタイズ図書データを国会図書館へ提出しました。 国会図書館にこれまでアップロードされたタイトル数は 333 タイトルになりました。(目標達成率約 42%)。333 タイトルの利用状況(ダウンロード回数)は合計 4,352 回(30 年度)ありました。					
自己評価・取組み改善点					
(1) デジタイズ図書を作り始めてから 29 年度までに作製したものを、品質に問題がないか分別しながら、提供できるものだけを国会図書館にデータ送信していたので 30 年度は僅かな数になりました。 目標まで達しなかった要因は音源が古いカセットテープをデジタイズ図書にしたため、音質に問題があったものでした。 今後は作製した年度中に国会図書館にデータを提供していきます。					B
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 なし					

事業番号	Ⅱ-2-1-1 (1)	計画内容	サービス計画ー成人	担当部門	成人
中間報告以後の実施計画					
・市民の課題解決を支援するサービスに取り組みます。					
5年間の獲得目標					
・健康医療情報、法律情報など、課題解決支援に関わる資料について新規購入や買い替えを進め、新しい情報の提供に努めます。					
30年度目標					
(1) 課題解決支援の一環として、法律情報コーナーに関連した講演会を実施するとともに、コーナーの資料の活用を促します。					
30年度実績					
(1) 法律情報コーナー開始から平成30年度末までのコーナー蔵書回転数は3.6回となりました。通常法律書架の同期間蔵書回転数3.9回と比べ少ないですが、これは実用書が多数含まれる通常書架に比べ、法律情報コーナーには六法を多く揃えたことが原因のひとつと考えられます。 (2) 法テラス弁護士を講師に招き、法律情報コーナーで配布中のリーフレットのうち最も需要のあった相続に関する講演会を実施しました(11月)。 講演テーマに合致した所蔵資料を講演中に紹介する等、講演内容にコーナーのPRを組み込みました。 演題：『争族』にならないために～知っておきたい初めての相続～ 参加者：28名					
自己評価・取組み改善点					
(1) 参加者アンケートより ・「よくわかった」「勉強になった」等の好意的な記入。15/19(78.9%) ・そのほか、「遺留分・分割方法について聞きたかった」等の具体的な要望や、「紹介したコーナーの資料について」読んでみたいと思います」という図書館資料への興味をおもわせるものがあり、資料としての需要が多いジャンルに対して、講演会を通して更に専門的な情報を提供することの効果を感じました。 今後も、図書資料に留まらず、利用者のニーズを把握しながら専門家の講演を継続して行う予定です。 (2) 今後のコーナーについて 利用者より、判例雑誌の保存期限の延長を望む声がありました。当該雑誌に関しては内容を鑑み、長期保存を検討します。					A
図書館協議会委員による二次評価 1/2					
委員からの質問・意見 意見：資料収集とソフト事業がリンクした事例だと思います。継続を。 質問：「法テラス弁護士を講師に招いた講演会」についてですが、この告知は図書館や市報で行われたのでしょうか？ 回答：市報、図書館HPへの掲載、FM西東京での告知、ポスター掲示・チラシ配布場所：市内各図書館/各公民館/庁舎/地区会館/福祉施設等です。 質問：課題解決支援サービスとして、「健康医療情報、法律情報など」を目標にあげているが、今後それ以外、例えばビジネス支援、行政情報提供（これはやっているかもしれないが）などのテーマを取り上げる予定はあるか。 回答：現在、課題解決支援サービス（と一応くくっているもの）については、中央図書館の健康医療・法律情報のほか、保谷駅前図書館のビジネス支援と柳沢図書館のシニア支援がある。					

図書館協議会委員による二次評価 2/2

それぞれのサービスの中で、今後サービスのテーマに合致した行政情報提供も行っていく予定です。講演等に関しては検討中です。

意見：課題解決支援サービスは、レファレンスサービスとセットで考えるべきものと思う。

一種の「積極的なレファレンスサービス（あるいは、情報サービス）」と位置づけて、担当者の研修、教育と結びつけて計画すると良いのではないかな。

回答：今年度からレファレンス担当が成人サービス担当と兼務しており、今後レファレンスとの連携を積極的に行う方向で取組を進めています。

意見：スペースの無い中、難しいとは思いますが、課題別の分かりやすい書架を工夫してほしい。

回答：課題解決支援サービスについては、今後5～10年に1度の分類再編成を予定している。その際には、その時々ニーズにあわせ、対象や収集方針なども再検討する予定です。

意見：改善点として、判例雑誌の保存期限の延長が検討されているが、書架スペースの無い現状からは、オンラインデータベースで提供（さらにそれを積極的にPR）するようにすべきではないか。

回答：レファレンス担当で検討しています。

事業番号	Ⅱ-2-1-1 (2)	計画内容	サービス計画ー成人	担当部門	成人
中間報告以後の実施計画					
成人サービスを年齢別、利用者層別に分け、対象者を絞り込んだ蔵書構成を行い、利用の拡大をめざします。					
5年間の獲得目標					
・他部門と協力しながら、ビジネスパーソン支援サービス、シニア支援サービス、青年期サービス、多文化共生サービスを実施します。					
30年度目標					
(1) 昨年度新設した英語多読コーナーの資料の更なるPRと活用促進をはかります。					
30年度実績					
(1) ひばりが丘図書館に英語多読コーナーを新設しました。それに伴い、多読資料を7シリーズ増やしました。今後は、中央・ひばりが丘の2館で多読コーナーを展開していきます。 蔵書回転数は開設当初は2シリーズから開始しシリーズ数を増やしたため、徐々に増加する結果となっています。 2019/2/1～3/31 0.80回 2019/4/1～5/23 1.93回 英語多読に関する講座を2回実施しました。 演題：英語多読 はじめのいっぽ～絵本から洋書へ～ (10月) 参加者：61名 演題：英語多読 文字から音へ！～英会話への入口～ (31年2月) 参加者：62名					
自己評価・取組み改善点 1/2					
(1) 参加者アンケートより ・「英語多読について知っていたか」について 昨年度アンケートでは「知っていた」が48%に対し、今年度は1回目64%、2回目58%となりました。英語多読コーナー設置により認知度が上がったこと、今年度1回目から2回					

自己評価・取組み改善点 2/2	
目の比率が下がったことに関しては、新規の参加者が増加したことが考えられます。 ・講座への参加理由を「子どもの教育のため」を選択した人数と親子参加組数は、 1回目：4/39 親子参加5組 2回目：9/43 親子参加6組 となり、以前に比べ子育て世代への図書館利用を促す契機となりました。 ・自由記入欄より、「よかった」「楽しかった」「面白かった」等好意的な記入 1回目：19/22 (86%) 2回目：22/26 (84%) (2) 2回目の講座終了後、参加者より自発的に市民サークルが発足しました。3月の初回集会では、発起人3名のほか、16名の参加があったとの報告がありました。今後、図書館としての関わり方について検討・整理を行います。	A
図書館協議会委員による二次評価 1/2	
委員からの質問・意見 質問：英語多読の位置づけは今後も成人サービスとして行っていくのか。 回答：今後も、数あるサービスの一つとして成人サービスで行う予定（多文化とは区別する）です。多読用資料は原著に忠実ではなく、語彙数、レベル等に特化した編集をされていることが多いため、通常の蔵書の収集/保存基準とは異なります。（基本的には入手困難なものは同レベルのものを代替とする、状態が悪いものの保存は考えない等） 意見：英語に関心のある人の世代が幅広いが、多文化共生とは目指す方向が違うように思う。 質問：講座後の「サークル」はどんな性格のサークルなのか。図書館の関わり方は？いわゆる団体登録をしているのか。 回答：講座終了後、参加者数名が自主的に声をかけあい、講師をオブザーバーとして図書館を通さず直接方向性を話し合っているようです。月1回・2時間の定例集会の際に、資料の貸出は行っている。サークルの代表が市外在住者であるため（市内在勤）、団体登録は現在方法を検討中です。 質問：「英語多読に関する講座」ですが、この告知は図書館や市報で行われたのでしょうか？ 回答：市報、図書館HPへの掲載、FM西東京での告知、ポスター掲示・チラシ配布場所：市内各図書館/各公民館/庁舎/地区会館/福祉施設等です。 質問：英語多読（多文化共生）以外の年齢・利用者層別サービスの状況はどうなっているか。 回答：青年期サービスについては、就活関連資料・語学資格取得関連資料の刷新を続行。 他、年1回、武蔵野大学文学部1年生を対象とした講義で紹介を行っている。その際、アンケートをとり、集計結果を書架構成に反映。今年度は、アンケート結果をふまえて雑誌3誌（音楽と人、POPEYE、ar）を新規購入、一定の利用を得ています。 質問：英語多読に関する講座の参加者の年齢層（概略でも）は分かるか。 回答：40歳代が一番多く、30年度第1回は30歳代から5人、12人、8人、11人で70歳以上が3人、第2回は30歳代から6人、13人、8人、6人、4人でした。子どもの参加は乳幼児も含めて2回とも5人でした。 意見：英語多読教材については、電子図書の利用が考えられる。 参考) http://www.mukogawa-u.ac.jp/~library/tadoku/index.html また、今後小学校の英語必修化への対応も必要になるのではないかと。 回答：英語多読のために電子図書を導入するのではなく、電子図書の導入については長期的な目的・方向性等を詳細に決定する必要があると考えています。（電子図書大手各社にはそれぞれのメリットとデメリットがあり、特徴がはっきりしているため）電子図書をどのように導入するか、限り有る資料費の中のどれだけをどのように電子図書にふるかは、図書館全体で慎重に検討したい。 ※電子図書に関しては、成人サービスだけの案件でないと考えています。	

事業番号	Ⅱ-2-2	計画内容	サービス計画ー児童・青少年	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
・おはなし会の充実を図ります。 ・行事の PR について充実を図ります。					
5 年間の獲得目標					
・全館での 1・2 歳児向けおはなし会を実施します。 ・各館のおはなし会の現状を把握・精査して、内容の標準化を図ることにより、参加する子どもたちが、どこの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにします。					
30 年度目標					
(1) おはなし会の充実					
30 年度実績					
(1) 定例以外のおはなし会全館実施 19 回 (平均 22.8 人) 内小学生限定おはなし会 柳沢図書館・ひばりが丘図書館実施 2 回 32 人参加 おはなし会ボランティアフォローアップ研修 連続講座 (全 2 回) 52 名 予算額 40,000 円 全館での 1・2 歳児向けおはなし会を各館で月 2 回以上実施 (芝久保のみ月 1 回) しました。 参加率は全体平均 11.4 人 中央 23 回平均 13.5 人 保谷 24 回平均 8.8 人 芝久保 12 回平均 15.8 人 谷戸 24 回平均 15.8 人 柳沢 24 回平均 16.9 人 ひばりが丘 36 回平均 10.4 人 3 歳児以上向け 定例おはなし会 全館 294 回 (参加平均 11.0 人) 児童館等共催 中央・保谷 21 回 (平均 10.6 人)					
自己評価・取組み改善点					
(1) 定例のおはなし会では小学生の参加が少ないため、小学生限定のおはなし会を実施しています。小学生が参加しやすいよう長期休暇に合わせ、内容も小学生向けとしています。 1・2 歳児向けおはなし会は各館常に一定の参加者数があり、事業は定着してきました。 おはなし会ボランティアを対象にフォローアップ研修や、合同会議を実施しています。フォローアップ研修では、読み聞かせの講師を招いての講座、合同会議では職員によるおすすめ絵本の紹介などを行い、おはなし会の質の向上も継続して行っています。					A
図書館協議会委員による二次評価 1/2					
委員からの質問・意見 質問：30 年度実績には、おはなし会の参加率が記載されていましたが、前回調査と比較したデータはありますか。参加回数なども考慮して評価できると分かりやすいと思いました。 回答：比較したデータはありません。事業概要の p 14、15 に各館行事の開催回数、参加人数、参加率を掲載していますが、これを年度ごとに見比べるのが一番見やすいと思います。 質問：小学生向けのおはなし会を日常、小学生の集まる場に出向いて行う機会は増やせませんか。しもほうや児童センターではおはなし会をされていますよね？ 回答：しもほうや児童センターで実施しているおはなし会「はじめてのページ」は、時間設定が午前中で、乳幼児が対象となっています。 新町児童館では月 1 回 3 歳以上向けの「新町おはなしひろば」を実施していますが、どちらも児童館との共催で、関係各位の理解・協力は不可欠となります。 図書館計画基本方針 4 施策の方向性 (2) 取組②では、司書の派遣として放課後子ども教室への取組を掲載しました。小学生の集まる場の検証も含め、検討していきます。					

図書館協議会委員による二次評価 2/2	
質問：「30 年度実績」のところで「定例以外の・・・」とありますが、「定例」の実績は」どこに記載されているのですか。	
回答：図書館事業概要の p 14、15 に記載されているもののうち、平均人数の記載があるものが定例のおはなし会になります。	

事業番号	Ⅱ-2-2	計画内容	サービス計画ー児童・青少年	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォロー事業を 3 歳児健診時に実施します。					
5 年間の獲得目標					
・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォロー事業を 3 歳児健診時に実施します。					
30 年度目標					
(1) 絵本と子育て事業・3 歳児フォロー事業の継続実施。					
30 年度実績					
(1) 絵本と子育て事業 絵本配布率 30 年度 99.7% (29 年度 99.7%) 3 歳児フォロー事業 30 年度実施回数 30 回 (内講師あり 22 回・参加率 11.5%) (29 年度実施 20 回 (内講師あり 15 回・参加率 10.9) 8 月から開始。)					
自己評価・取組み改善点					
(1) 絵本と子育て事業は健診会場と同じフロアということもあり、高い配布率を維持し、事業が定着したといえます。30 年度からは配布する絵本を対象者自身が選べるようになり (2 種類から 1 冊) 対象者からは好評です。 3 歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が離れている難点があり、参加率の伸びにつながりませんでした。案内の際、事業参加を促すと共に、会場に行かない親子にも、わずかな時間でも 3 歳児やその保護者へもれなく声かけできる貴重な機会なので、図書館やおはなし会の案内、読み聞かせについてのお話など PR を積極的に行い、子育てにおける絵本の大切さを伝える機会としたいと思います。 実際に事業に参加した方の様子は、飾りつけやレイアウトを工夫した会場に長く滞在し、読み聞かせをゆっくり楽しまれている親子が多いです。					B

図書館協議会委員による二次評価 1/2	
委員からの質問・意見	
質問：ほぼ全員が参加する 3 歳児健診の機会を活用して図書館をアピールすることは意味があると思いますが、健診内容のボリュームや所要時間を考えると、別会場で設定されたおはなし会への参加率はあまりあがらないと思われますが、今後もブックスタートのフォローアップは 3 歳児健診の場で行うのでしょうか。年間開催回数のご苦労を思うと、一斉に伝える場にはならなくても、基幹型保育園や子ども家庭支援センターの子育て広場などで巡回的に働きかけを行う方が、実質的な出会いにつながるのでは、と思いますが、いかがでしょうか。	
回答：他の会場での実施も視野に入れて、効果的な方法を検討していきます。	
質問：「絵本と子育て事業」は何歳児対象ですか。	
回答：0 歳児です。(3、4 ヶ月健診での実施)	

図書館協議会委員による二次評価 2/2

意見：「絵本と子育て事業」「3歳児フォロー事業」に関してです。まず「絵本と子育て事業（ブックスタート）」ですが、4ヶ月検診の際に2冊を図書館スタッフの方が読み聞かせし、気に入った絵本をプレゼントするという方法でやっているという自治体（埼玉県三芳町）の様子をテレビで見ました。さらに、2歳6ヶ月の検診の際にも同じことをやっているそうです。「どんな絵本を選んでいいかわからない」だけではなく、親自身がそれほど絵本に興味のない場合は「自分が、どう子どもと絵本をつなげていいか」について悩むことはあると思います。そういった場合、このように読み聞かせを親子に見せれば、読み聞かせ方がわかりますし、「この子はこんなふうに絵本を読めば反応する」ということがわかれば、親も絵本に興味が出てくるのではないのでしょうか。西東京市のほうが人口も多いでしょうし、図書館スタッフの手をわずらわせることにはなるとは思いますが、一人の親としてはいいアイデアだと思いました。あとは、会議でも申し上げましたが、「3歳児フォロー事業」に関しては、時間も問題だと思います。

回答：絵本と子育て事業では、検診に来た親子へ、絵本のプレゼント、読み聞かせ講師による読み聞かせの実演、読書案内、図書館の利用案内、各図書館でのおはなし会の案内、西東京市図書館児童サービス担当が作成したブックリストの配布等行っています。

3歳児フォロー事業に関しては、講師による絵本の読み聞かせ、図書館の利用案内、読書案内、西東京市図書館児童サービス担当が作成したブックリストの配布、各図書館でのおはなし会の案内、折り紙のプレゼント等をおこなっていますが、前述の指摘のとおり会場の問題等もあり、参加率はあがっていません。事業自体の見直し・検討は必要です。

事業番号	Ⅱ-2-3-1 (5)	計画内容	サービス計画ーレファレンス	担当部門	レファレンス
中間報告以後の実施計画					
・利用者へレファレンスサービスをPRし、利用者には有用な情報を届けるため、有料データベースを活用したレファレンス事例を公開し、その手法について、市民講座を開催します。 ・情報弱者の解消に向け、利用者役に役立つ方策について検討し、具体化します。					
5年間の獲得目標					
・利用者対象の有料データベースの活用方法、国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧講習会、利用者用検索機（OPAC）の利用方法講習会等の開催について、段階的に拡大し、5年間で100回以上の実施を目標とします。					
30年度目標					
(1) 利用者向けにデータベースの講演会およびショートセミナーを開催し、利用者の調査研究を支援します。 (2) レファレンスサービスのPRを行います。					
30年度実績 1/2					
(1) ①百科事典ポプラディアを利用した、子ども向け調べ方講座を開催しました（8月）。 演題：「きみも調べ方マスター！百科事典ポプラディア講座」 参加者：11名（子ども9名、付き添い2名） ②15分程度で申し込み不要の気軽に参加できるショートセミナーを3回実施しました（7・8月）。 演題：有料データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」ショートセミナー 参加者：2名（使用端末2台） 演題：データベース「国立国会図書館デジタルコレクション」ショートセミナー 参加者：6名（使用端末2台） 演題：データベース「国立国会図書館歴史的音源」ショートセミナー 参加者：2名（使用端末2台）					

30 年度実績 2/2	
③データベースアクセス数は下記のように増加が見られました。 聞蔵Ⅱビジュアル：平成 30 年度 64 回（平成 29 年度 42 回） 国立国会図書館デジタルコレクション：平成 30 年度 790 回（平成 29 年度 278 回）（閲覧数） 国立国会図書館歴史的音源：平成 30 年度 43 回（平成 29 年度 32 回） （2）「図書館だより 73 号」の一面にレファレンスサービスの特集を組み、レファレンス事例や、Web レファレンスの案内等サービスの紹介を掲載しました。	
自己評価・取組み改善点	
（1）アンケートでは、約 87%が「とてもよかった」「よかった」と回答（残りの 13%は無回答）。感想には「自由研究の参考になった」「色々な調べ方があってびっくりした」等の意見があり、熱心にノートを取っている参加者もありました。自由研究、児童という切り口から、レファレンス資料のPRをすることには効果を感じました。 ショートセミナーでは、絞込み検索の方法についてや、落語の検索について質問が出ました。アクセス数の増加から、参加者だけでなくポスターや当日の呼び込みにより、データベースの周知に一定の効果があったと考えられます。今後は開催回数や開催館について検討を進めます。 （2）図書館だよりの特集を見てレファレンスサービスを申し込んだ利用者もあり、PR の効果を感じました。	A
図書館協議会委員による二次評価	
委員からの質問・意見 意見：30 年度実績の（1）②のショートセミナーの参加者が少ないように感じられました。良い企画だと思うので、事前告知や当日の呼びかけなどに更なる工夫があると参加者増加につながるのではないのでしょうか。 回答：ショートセミナーの目的は、開館時間中のセミナーの実施により来館中の利用者に周知をはかることに重点を置いています。スペースや使用できる端末の台数などの観点から、定員を 6 名前後に設定し、可能な限り参加者の希望や知りたい内容に沿った説明を行っています。今後は（人数を確保することより）回数の増加を目指しています。当日の呼びかけ等広報の工夫は引き続き検討していきます。 意見：とてもよい事業だと思います。定期的な開催を。 回答：回数の増加を目指していきます。 質問：「百科事典ポプラディア講座」ですが、どのように告知されているのでしょうか？ 回答：市報、市 HP、図書館 HP、ポスター・チラシ（図書館・公民館・児童館・学童クラブ） 質問：情報弱者（デジタルデバイド）への支援方法はどの程度検討されているか。 回答：図書館計画内では、所蔵資料やインターネット情報の活用促進のための講座・講演会を計画しています。 意見：昨年度「百科事典ポプラディア講座」に参加した感想から、とても良いイベントだったが、できれば図書館の建屋内で実施してほしかった。そうすることで、当日参加者以外にもどのようなイベントが行われているのか知らせることができ、興味関心を引くことができるのではないかと。（ただし、それなりの環境整備が必要とも思われるが） 回答：環境整備とともに今後検討していきます。 意見：有料データベース等のショートセミナーについて、参加者が非常に少ないのが残念に思われる。あるいはこれは定員の関係なのだろうか。もしそうだとしたら、受付期間を区切るのではなく、ある程度フレキシブルにショートセミナーを実施できる体制を作って欲しい。利用者にとっては、細かい検索テクニックよりも、データベースがどのような内容かを知らせることが重要ではないかと考える。 回答：ショートセミナーの目的は、開館時間中のセミナーの実施により来館中の利用者に周知をは	

図書館協議会委員による二次評価 1/2

かることに重点を置いています。スペースや使用できる端末の台数などの観点から、定員を6名前後に設定し、可能な限り参加者の希望や知りたい内容に沿った説明を行っています。今後は（人数を確保することより）回数の増加を目指しています。

事業番号	Ⅱ-2-3-3 (3)	計画内容	サービス計画ーレファレンス	担当部門	レファレンス
中間報告以後の実施計画					
・職員・嘱託員の研修機会の確保と館内研修の拡大を進めます。 ・外部研修で得た知識や技能について、館内研修での還元を行います。					
5年間の獲得目標					
・職員・嘱託員の研修を充実させるため、25年度（200時間）比5%ずつの増加を目標とします。					
30年度目標					
(1) 図書館員むけのレファレンス研修を実施し、基礎的なレファレンス知識の獲得を目指します。 (2) レファレンス記録の集積・活用を目指します。 (3) レファレンスだよりを発行し、全館的なレファレンスへの関心・スキル向上をねらいます。 (4) 外部研修に積極的に参加し、得た知見の還元をこころがけます。					
30年度実績					
(1) レファレンス研修を行いました。 内容：国立国会図書館派遣型研修「国立国会図書館を使いこなす」（6月15日） 対象：西東京市全館図書館員 (2) レファレンス記録数：222件 国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録数：222件、国立国会図書館長から御礼状が送付されました（年間データ登録件数が200件以上となった館を対象に送られる）。 (3) 西東京市全館図書館員を対象にした「レファレンスだより」を2回発行し、レファレンス記録の集計報告や購入資料の紹介、外部研修で学んだ知識の共有を行いました。 (4) レファレンス担当が、都立図書館のレファレンス研修に参加しました。研修の内容を一部「レファレンスだより」にて紹介しました。 内容：「美術情報」「法律情報」「新聞・雑誌情報」					
自己評価・取組み改善点					
(1) 国立国会図書館から講師を招き、レファレンスに役立つデータベースや蔵書検索のポイントなどのレクチャーを受けました。受講者からは「各データベースの違いと活用方法がよくわかった」「実際に操作したり課題があると更に良かった」といった意見が寄せられました。今後も引き続き、レクチャーを受けたデータベースやその活用事例を紹介することで、知識の定着を目指します。 (2) 記録の集計をもとに、資料購入や所蔵館を検討できるようになりました（平成29年度302件 平成30年度222件）。今後はレファレンス記録を使った研修を検討します。 (3) 西東京市で実際にあった事例を元にした内容にすることで、すぐに使える知識を共有できました。今後はデータベースの使い方や、レファレンスインタビューについて知識の共有を行い、内容の充実を目指します。 (4) 西東京市でもレファレンスの多い、「美術情報」について外部研修に参加し、その内容を「レファレンスだより」にて共有しました。発行後、掲載したレファレンス資料を使用した事例もあり、一定の効果がありました。					A

図書館協議会委員による二次評価	
委員からの質問・意見 意見：研修機会をより拡大してください。 回答：研修方法や時間数について引き続き検討していきます。	

事業番号	Ⅱ-2-4-1 (5)	計画内容	サービス計画ー地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料
中間報告以後の実施計画					
・西東京市に関する情報の積極的な収集のため、市民や市内活動団体、庁内各部署、特に下野谷遺跡等文化財関連事業との連携を図るよう努めます。					
5年間の獲得目標					
・相談、支援、調査、事業開催に努めます。					
30年度目標					
(1) 夏休みの子どもの向けイベントを図書館全体で企画・広報し、図書館利用の促進を図ります。 (2) 地域の歴史をわかりやすく学ぶ場としての子ども向け講演会を昨年度に引き続き開催します。 (3) 西東京市縁講演会を引き続き開催します。 (4) 図書館だより等で、情報提供を継続します。					
30年度実績					
(1) 夏休みの子どもの向けイベントを図書館全体で広報西東京市(市報)掲載し、ちらしも作成しました。 (2) 児童と地域・行政資料の2つのサービス部門による夏休みの子どもの向け合同企画 ①演題：「ソウセキさんに学ぶ『なんだ、これでいいんだ!』おもしろ手紙教室」 講師：中川越 7月27日 谷戸公民館 子ども11名参加 ②演題：「田の無い村と武士になった村長さん」 講師：行田健晃 8月17日 谷戸公民館 子ども12名参加 (3) 西東京市在住の縁の文化人を講師に招き、3回の講演会を実施 参加者計97名 ①演題：「西東京市における空襲と戦争遺跡」 講師：牛田守彦 10月14日 柳沢公民館 46名 ②演題：「仏像の世界」 講師：田中義恭 10月20日 田無公民館 94名 ③演題：「武蔵野の雑木林再生」 講師：池田干城 田無公民館 22名 (4) ①「図書館だより」に講演会の報告を掲載しました。 ②ホームページに講演会講師の協力により講演会の概要報告やまとめを掲載しました。 ・牛田氏による講演内容の要点をまとめた原稿 ・田中氏の講演記録 ③「図書館だより」での『にんにん西東京』は第20～22回を更新しました。					
自己評価・取組み改善点 1/2					
(1) 夏休みの子どもの向けイベントを図書館全体で企画・広報したことは、参加したい行事を選びやすかったと言う保護者の声もあったので、次年度以降はさらに工夫を加えて発信したいと考えます。 (2) 子ども向けの企画は、児童サービス担当と合同で進めたことで対象に沿った準備ができました。在住の手紙文化研究家の中川氏によるお手紙教室は、知識と共に作品ができあがる楽しさがあり、近世の研究者である行田氏による歴史講座は、田無・保谷の村の様子や江戸時代のお金の価値や暮らしを画像や実物の古文書を使って興味を引き出しながら進められ、どちらも好評でした。講師やテーマを見極めて、継続して取組むことが課題です。					A

自己評価・取組み改善点 2/2	
(3) 継続実施している西東京市縁講演会は、終了後「図書館だより」での報告のほかに、詳細をホームページに掲載することで、参加できなかった方にも内容を発信することができました。	

図書館協議会委員による二次評価	
委員からの質問・意見 意見：縁講演会の報告が HP に上がっているのを見ると、当日参加できなかったものでも内容を知ることができ興味深く見えています。今後行った講座の結果を、参加できなかった市民にも伝える取り組みをお願いします。 回答：イベントの内容や講師の意向に沿って有効な発信方法を試みながら、蓄積し活用したいと考えています。 感想：子供向けの企画はいいですね。 質問：下野谷遺跡等文化財関連事業との連携は、どのように進めているか。 回答：情報や発行物等の収集とその紹介を継続していきます。 意見：地域に関するイベントの記録を、地域資料として電子化して保存して欲しい。 回答：イベントの内容や講師の意向に沿って有効な発信方法を試みながら、蓄積し活用したいと考えています。	

事業番号	Ⅱ-2-4-2 (1)	計画内容	サービス計画ー地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料
中間報告以後の実施計画					
・西東京市情報を求める市民要請に答えられるようにするため、適切な書架作りを行いコーナーの充実に努めます。					
5年間の獲得目標					
・中央図書館コーナーには周辺地域を含めて市民の暮らしに役立つ最新の行政資料と、郷土にゆかりのある方の著作や、歴史、民俗等西東京市を知るための郷土資料整備に努めます。 ・地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めます。 ・コーナー、書庫、地域・行政資料室を併せて資料整備の拡充に努めます。					
30年度目標					
(1) 中央図書館1階の地域・行政資料コーナーの整備。 (2) 地域・行政資料室の書架を利用者にとって使いやすい構成に改善します。 (3) 芝久保図書館の書庫の地域・行政資料コーナーを有効に活用します。					
30年度実績					
(1) 中央図書館1階において、縁のコーナーを広げ、古文書学習者向け資料と書庫から出納していた全集等をまとめて手の届きやすい書架(4連分)に、請求記号順に配架していた東京都関連資料のうち東京都発行資料も別置きしました。同時に見出し板の色分けを行いました。 (2) 地域・行政資料室において、ファイルや保存箱に収集してきたページ数の少ない逐次刊行物を製本して配架した。結果、省スペースと共に、閲覧しやすい書架に改善できました。 (3) 芝久保図書館の書庫にあった保存検討用の新聞切抜きを精査し、空いたスペースに電子化済の市史編纂資料を収めた。					

自己評価・取組み改善点	
(1) (2) 中央図書館 1 階と地域・行政資料室の書架を変更したことで、これまで職員の案内が必要だった資料に利用者が偶然出会えたり、自由に閲覧したりする資料を増やすことができました。 (3) 芝久保図書館の書庫に電子化済の市史編纂資料の一部を収められたことは、貴重資料の保存環境が向上したと言えます。	A
図書館協議会委員による二次評価	
委員からの質問・意見 なし	

事業番号	Ⅱ-2-5-1 (2)	計画内容	サービス計画ーハンディキャップ	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
・宅配市民ボランティアを活用し、宅配サービスを市内全域に網羅するように整備します。					
5 年間の獲得目標					
・宅配事業を推進するため、宅配希望者 80 名の登録を目標とします。					
30 年度目標					
(1) 市民ボランティアを活用した宅配サービスを軌道に乗せ、宅配協力員を増員します。					
30 年度実績					
(1) 新たに市民協力員 2 人が加わり合計 8 人になりました。 年度途中からも含めて宅配利用は 19 人（定期・不定期含む）、利用しています。 19 人の内、職員対応が必要な方が 4 人、エリアによっては協力員でカバーできず職員が宅配している方が 4 人います。11 人の利用者に対し 8 人の協力員による宅配を実施しました。 6 月と 2 月の年 2 回、協力員に対し守秘義務の徹底、個人情報漏洩事故が起きないように研修を実施、宅配時で困ったことや改善してほしい点等、懇談会も開催しました。 宅配回数：延べ 223 回。協力員による宅配：147 回、職員による宅配：76 回。					
自己評価・取組み改善点					
(1) 担当職員だけでは宅配できる件数に限度がありましたが、協力員を活用することにより、より利用者のニーズに対応できました。 今後も協力員の募集を行い人員の確保に努めた後、利用者へ P R を行います。					A
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 質問：5 年間の獲得目標として「宅配希望者 80 名の登録を目標」とありますが、市民協力員の登録人数には目標はありますか。 回答：宅配登録者の利用頻度と宅配協力員の活動できる頻度に照らし合わせており、調整しつつ進めているため目標は掲げていません。 感想：宅配協力員に感謝します。					

事業番号	Ⅱ-2-5-新	計画内容	サービス計画ーハンディキャップ	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
・多文化サービスの検討と事業整備を実施します。					
5年間の獲得目標					
・多文化サービスの事業開始を目指します。					
30年度目標					
(1) 多言語でのおはなし会を実施します。					
30年度実績					
(1) 「にほんご教室（公民館事業）」に参加されていた中国・韓国・フィリピン出身の方による『英語・中国語・韓国語できくいろんなことばでたのしむおはなし会』を、柳沢図書館及び保谷駅前図書館にて開催しました。 柳沢図書館では平日の夏休みに開催し 29 人の参加、保谷駅前図書館では 1 月の日曜日に開催し、24 人の参加がありました。					
自己評価・取組み改善点					
(1) いずれも親子連れだけではなく大人のみの参加もあり、なかには韓国の方や英語圏（出身は不詳）の方も参加されていました。日本語を含めた 4 ヶ国語の読み聞かせや挨拶のほか、各国の文化等を紹介しました。 アンケート結果では、柳沢図書館の回では 92%・保谷駅前図書館の回では 100%「楽しかった」と回答があり、継続してほしいという意見もありました。 参加は日本人が多いですが、他国を知るといふ点では興味をひきつけることができました。 次年度はひばりが丘図書館および芝久保図書館での開催を予定しています。					B
図書館協議会委員による二次評価					
委員からの質問・意見 質問：多言語おはなし会の参加者からはよい感想をもらっているが、自己評価が B なのはどのような点が不足と考えているのか。 回答：地域に住んでいる日本語を母語としない方に参加していただきたい事業であるため、参加者のほとんどが日本人という点で B 評価にしました。 質問：多言語おはなし会の英語の部分をフィリピン出身の人に頼んでいるのか。 回答：市内在住で、英語圏の方に依頼しています。 質問：日本語以外を母語とする成人・子ども本人が多く参加できるような働きかけは何かしているのか。 回答：ポスター掲示・チラシ配布を依頼しています。館内以外にも多文化共生センター、公民館事業で「にほんご教室」に参加の外国人、開催館近隣の小学校などです。ほかにも図書館HP、広報西東京、FM西東京などにもPRをしています。 意見：体系的なサービス計画を構築してください。 回答：31 年度からハンディキャップサービスから専任のサービスを立ち上げたので、図書館計画に基づいて進めていきます。					